

- Yamada Y, Oda Y, et al.:
Malignant solitary fibrous tumor with high-grade nuclear atypia: an alternate entity for the undetermined tumor group
Pathol Res Pract, in press 2014
- Kohashi K, Oda Y, et al.:
ERG and SALL4 expressions in SMARCB1/INI1-deficient tumors: a useful tool for distinguishing epithelioid sarcoma from malignant rhabdoid tumor
Hum Pathology, in press 2014
- Nabeshima A, Oda Y, et al.:
Tumour-associated macrophages correlate with poor prognosis in myxoid liposarcoma and promote cell motility and invasion via the HB-EGF-EGFR-PI3K/Akt pathways
Br J Cancer, in press 2014
- Hotokebuchi Y, Oda Y, et al.:
Congenital peribrachial myofibroblastic tumor
Pathol Int, 64(4):189-191, 2014
- Tsukamoto Y, Oda Y, et al.:
STAT6-positive intraorbital papillary tumor: A rare variant of solitary fibrous tumor?
Pathol Res Pract, 210:450-453, 2014
- Ito T, Oda Y, et al.:
Lipoblastomatosis on the sole showing spontaneous regression
Eur J Dermatol, 24(3):399-401, 2014
- Inatomi Y, Oda Y, et al.:
Hybrid perineurioma-neurofibroma in a patient with neurofibromatosis type 1, clinically mimicking malignant peripheral nerve sheath tumor
Eur J Dermatol, 24(3):412-413, 2014
- Tajima S, Oda Y, et al.:
Aggressive Angiomyxoma of the Pelvis with a Cellular Nodule Composed of Tumor Cells showing Epithelioid Features
Rare Tumors, 4:6(3):5397, 2014
- Sakamoto A, Oda Y, et al.:
Aggressive clinical course of epithelioid angiosarcoma in the femur: a case report
World J Surg Oncol, 12(1):281, 2014
- Maekawa A, Oda Y, et al.:
A case of intracranial solitary fibrous tumor/hemangiopericytoma with dedifferentiated component
Neuropathology, in press 2014
- 小田義直:
軟部組織
病理組織マップ&ガイド, 文光堂, 東京, 261-272, 2014
- 佛淵由佳, 小田義直, 他:
Costello 症候群に合併した胎児型横紋筋肉腫の剖検例
病理と臨床, 32(11):1263-1269, 2014
- 高橋祐介, 小田義直, 他:
軟骨性腫瘍について—最近の動向—
WHO 分類改訂に基づく最近の知見
病理と臨床, 32(2):128-132, 2014
- 山田裕一, 小田義直:
皮膚特有の間葉系腫瘍 2 : 線維・線維組織球性、脂肪性およびその他の腫瘍
皮膚疾患のみかた II—腫瘍および腫瘍類似病変—
病理と臨床, 32(4):391-399, 2014
- 石井武彰, 小田義直:
骨・軟部の未分化肉腫いわゆる MFH の概念の変遷
臨床画像, 30(7):724-729, 2014
2. 学会発表
Oda Y:
Recent advances in molecular pathology of soft tissue sarcomas
2014 Annual Meeting of Taiwan Society of Pathology and IAP Taiwan Division (2014.5.25 Taipei, Taiwan)
- Oda Y:
Myoepithelial carcinoma
2014 Annual Meeting of Taiwan Society of Pathology and IAP Taiwan Division (2014.5.25 Taipei, Taiwan)

Oda Y:

Activation of Akt-mTOR pathway and its therapeutic implication in spindle cell soft tissue sarcomas

Joint Japanese German Symposium

The 98th Annual Meeting of the German Society of Pathology (2014.6.12-15 Berlin, Germany)

Oda Y:

Soft tissue tumors including entities currently under discussion

The 98th Annual Meeting of the German Society of Pathology (2014.6.12-15 Berlin, Germany)

Oda Y:

Fibrogenic and Fibrohistiocytic Tumors

19th Korean Academy of Science and Technology, International Symposium

Bone Health-Occurrence of tumors and genetic personalized therapy (2014.6.28 Seoul, Korea)

Oda Y:

Angiofibroma of soft tissue

XXXth Congress of the International Academy of Pathology (2014.10.5-10 Bangkok, Thailand)

Oda Y:

Unusual soft tissue

XXXth Congress of the International Academy of Pathology (2014.10.5-10 Bangkok, Thailand)

小田義直:

骨肉腫および Fibrous lesion のトピックス

第 103 回日本病理学会学術集会 (2014.4.24-26 広島)

小田義直:

軟部腫瘍の分子病理診断

第 103 回日本病理学会学術集会 (2014.4.24-26 広島)

佛淵由佳, 小田義直, 他:

隆起性皮膚線維肉腫における Akt/mTOR pathway の解析

第 103 回日本病理学会学術集会 (2014.4.24-26 広島)

山元英崇, 小田義直, 他:

炎症性筋線維芽細胞腫瘍における ALK, ROS1 の発見

第 103 回日本病理学会学術集会 (2014.4.24-26 広島)

塚本吉胤, 小田義直, 他:

特異な組織像を示した眼窩 solitary fibrous tumor の一例

第 103 回日本病理学会学術集会 (2014.4.24-26 広島)

松本嘉寛, 小田義直, 他:

砂時計腫形態を呈した悪性神経鞘腫瘍の画像的特徴

第 87 回日本整形外科学会学術総会

(2014.5.22-25 神戸)

遠藤誠, 小田義直, 他:

骨・軟部腫瘍を含む間葉系腫瘍における MCL1 および BCL2 タンパク発現の網羅的解析

第 87 回日本整形外科学会学術総会

(2014.5.22-25 神戸)

郡司香織, 小田義直, 他:

下顎骨に発生した Ewing 肉腫/PNET の一例

第 55 回日本臨床細胞学会 (2014.6.5-7 横浜)

小田義直:

軟部腫瘍の 2013 年新 WHO 分類

第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

(2014.7.17-18 大阪)

廣瀬毅, 小田義直, 他:

悪性骨腫瘍に対する second line 化学療法としての ifosfamide, carboplatin, etoposide 併用療法 (ICE 療法) の安全性と有効性の検討

第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

(2014.7.17-18 大阪)

前川啓, 小田義直, 他:

滑膜肉腫臨床検体における melanoma inhibitory activity protein の発現

第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

(2014.7.17-18 大阪)

遠藤誠, 小田義直, 他:

悪性末梢神経鞘腫瘍における PTEN の発現解析と予後的意義の検討

第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

(2014.7.17-18 大阪)

福島俊, 小田義直, 他:
当科におけるデスモイド型線維腫症の治療成績と
今後の展望
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会
(2014.7.17-18 大阪)

播広谷勝三, 小田義直, 他:
硬膜内髄外に発生した骨外性 Ewing 肉腫/primitive
neuroectodermal tumor の治療成績
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会
(2014.7.17-18 大阪)

小田義直:
骨肉腫における転写因子 YB-1 およびケモカインレ
セプター CXCR4 発現
シンポジウム「骨微小環境とがんの遭遇」
第 32 回日本骨代謝学会学術総会
(2014.7.24-26 大阪)

小田義直, 他:
紡錘型細胞軟部肉腫における Akt-mTOR シグナル
経路の活性化とその治療応用の可能性
シンポジウム: 肉腫における基礎・臨床研究の最前
線
第 73 回日本癌学会学術総会 (2014.9.25-27 大阪)

井浦国生, 小田義直, 他:
癌精巢抗原 PRAME と NY - ESO - 1 の脂肪肉腫
での発現と粘液/円形細胞型脂肪肉腫における臨床
病理学的因子との関連
第 73 回日本癌学会学術総会 (2014.9.25-27 大阪)

鍋島央, 小田義直, 他:
粘液型脂肪肉腫においてマクロファージの浸潤は
予後不良因子である
第 73 回日本癌学会学術総会 (2014.9.25-27 大阪)

小田義直:
軟部腫瘍病理診断における分子病理の応用
第 53 回日本臨床細胞学会秋季大会
(2014.11.8-9 山口)

小田義直:
骨腫瘍における新 WHO 分類の変更点
骨軟部腫瘍の新 WHO 分類
2014 年国際病理アカデミー日本支部教育シンポジ
ウム (2014.11.22 沖縄)

小田義直:
軟部腫瘍の遺伝子診断と新たな疾患概念
第 8 回しまなみ骨・関節フォーラム
(2014.12.11 松山)

仲正喜, 小田義直, 他:
横紋の認識が診断に有用であった胎児型横紋筋肉
腫の 1 例
第 30 回福岡県臨床細胞学会
(2014.12.14 福岡)

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし

悪性骨軟部腫瘍の標準治療確立に関する病理学的検討

担当責任者 蛭田 啓之 東邦大学医療センター佐倉病院病理診断科 准教授

研究要旨 治療についての病理組織学的検討は、治療の良否を評価し、治療法の選択、予後の予測に関与する。組織像および肉眼・画像所見の比較検討を重ねることにより画像診断・最適な切除縁設定が可能となる。また、術前治療の組織学的効果判定においてより有用な基準を設定することが、治療法の確立や予後の改善につながるものと考えられる。一方、骨軟部腫瘍は発生頻度が少ない上に組織分類が多く、組織診断の難しい分野である。免疫組織化学的・分子生物学的手法を用いた正確な診断が必要である。

A. 研究目的

悪性骨軟部腫瘍において、1. 術前治療の組織学効果判定、2. 手術検体の切除縁評価・腫瘍の発育態度について、昨年度より引き続き検討し、症例を蓄積・解析する。また、3. 病理診断の難しい骨軟部腫瘍について様々な手法を用いた正確な診断を試みる。

B. 研究方法

1. 術前治療効果の期待できる骨肉腫を対象とした。術前化学療法のみを行い、局所治療のないMONO症例で、少なくとも腫瘍最大割面の組織標本のある初回切除例を対象とした。日本臨床腫瘍研究グループの骨軟部腫瘍グループで提案されている基準

（JCOG基準）のほか、従来から用いられている悪性骨腫瘍取扱い規約の組織学的効果判定基準・がん研整形外科基準による判定と予後との関連性を検討、比較する。合わせて組織像の変化に対する見方・解釈を検討、確立する。症例の追加・蓄積を行い、評価法・基準の精度向上を図る。

2. 切除検体は少なくとも直交する2つの全割面で標本作製し、組織学的に発育態度・浸潤様式と距離、切除縁・バリアとの関係などを検討する。切除縁における肉眼評価・画像所見との比較を行う。浸潤性発育症例は、松本ら（がん研整形外科）の定義を用いた。

3. 病理診断に難渋する症例について、免疫組織化学的・分子生物学的手法を用いて検討する。

（倫理面への配慮）

後方視的の研究であり、対象者から書面による同意はとっていないが、本研究は病理組織と一般的な画像検査情報を用いており、研究による患者への不利益は生じないと考えられる。また、個人情報を

削除した臨床データで解析されており、この点においても十分な配慮がなされている。

C. 研究結果

1. 骨肉腫では腫瘍細胞の消失・壊死を効果領域とするが、残存領域でも細胞密度の減少を換算して評価に加えれば、予後と有意な相関が得られ、JCOG基準の妥当性が窺われた。

2. 膨張性発育を示す腫瘍は肉眼・画像所見と腫瘍の進展範囲はほぼ一致するが、浸潤性発育を示す症例が多い粘液線維肉腫やいわゆるMFHなどで判断が難しく、切除縁設定の難しさが窺えた。組織学的に浸潤性発育をする腫瘍は、皮下脂肪の線維性中隔や筋膜、筋線維束間の線維性組織に沿った発育を示すなど、バリアに沿う縦方向・接線方向への発育が多いが、バリアの貫通や筋線維間の横方向への発育なども認められた。明らかな腫瘍形成部から最大で4cm以上（バリアは距離に換算）の伸展を示していた。

3. コンサルテーションを含む診断難渋症例・希少症例について免疫組織化学的・分子生物学的手法の有用性が確認された。

D. 考察

1. 術前治療の組織学的効果判定において、効果領域として腫瘍消失領域のみならず、細胞密度の減少領域を評価に加えることが重要である。評価者較差が少なく有用な基準が策定できるものと思われる。悪性骨腫瘍では治療後も元の腫瘍範囲が比較的明瞭で判定可能であるが、悪性軟部腫瘍においては術前治療による腫瘍の消失・縮小がある一方で腫瘍産生基質の有無と残存などにも左右され、効果領域の割合を評価しにくい。組織型・組織像の多彩性が評

価や判定基準の策定を難しくしている。引き続き、症例の蓄積および評価・判定基準を検討する。

2. 悪性骨軟部腫瘍における追加治療の要否や、再発・予後の改善のためには、組織学的に腫瘍の発育態度、切除縁を正確に確認することが重要である。特に浸潤型肉腫では画像・肉眼評価と異なることも多く、組織学的にも腫瘍浸潤と反応性の細胞との区別が難しい場合が少なくない。症例を蓄積、対比することにより、今後の画像診断の向上や切除縁設定、さらには局所根治性・予後改善の一助になると思われる。

3. 新しい抗体を用いた免疫組織化学的検討や分子生物学的手法を用いた遺伝子異常の検索が今後の腫瘍分類、治療に重要な役割を果たすものと期待される。

E. 結論

骨軟部腫瘍は頻度が少ない一方で、種類が多く、未だに分類の変遷があるなど、診断や治療に難渋することもしばしば経験される。個々の症例の正確な病理診断と治療の組織学的評価が重要で、症例を蓄積・解析することにより、術前治療の選択や切除縁設定など治療法の確立、さらには予後の改善につながるものと考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

Miyazaki J, Hiruta N, et al.:

CASE 11: A 41-Year-Old Female, Myxoid Liposarcoma of Right Lower Leg

The 26th Forum of the Surgical Society for Musculoskeletal Sarcoma (2014.3.8 Tokyo, Japan)

Shibata H, Hiruta N, et al.:

CASE 10: A 46-Year-Old Female, Parosteal Osteosarcoma of the Right Tibia

The 26th Forum of the Surgical Society for Musculoskeletal Sarcoma (2014.3.8 Tokyo, Japan)

Matsuzawa Y, Hiruta N, et al.:

A case of intrathorax phosphaturic mesenchymal tumor associated with hypophosphatemic osteomalacia

American Thoracic Society 2014 International Conference (2014.5.16-21 San Diego, USA)

粕谷秀輔, 蛭田啓之, 他:

肋骨原発悪性リンパ腫の1例

第33回日本画像医学会 (2014.2.21-22 東京)

福島万奈, 蛭田啓之, 他:

腫瘍性骨軟化症における間葉系幹細胞マーカーの発現

第103回日本病理学会総会 (2014.4.24-26 広島)

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

脊椎原発性悪性腫瘍あるいは転移性腫瘍と鑑別を要する脊椎血管腫の臨床病理学的特徴について

担当責任者 山口 岳彦 獨協医科大学越谷病院病理診断科 学内教授

研究要旨 高悪性度骨軟部腫瘍患者の治療において、脊椎病変を正確に評価することはその予後評価に影響を与える。脊椎には血管腫が好発することから、その鑑別に役立つ所見を得るため、剖検例を用い脊椎血管腫の臨床病理学的検討を行った。脊椎血管腫は、約14%の剖検例でみられ、その約20%は多発例であった。好発部位は胸椎であり、良性脊索細胞腫の好発部位の仙尾椎や頸椎例は少なかった。組織学的には、血管増殖とともに背景は脂肪髄であることがわかった。胸椎に好発し、多発傾向を示し、T1強調像である程度の信号強度を示すという所見は、血管腫を強く疑う根拠となり得る。

A. 研究目的

脊椎には、転移性骨腫瘍のほか様々な腫瘍あるいは腫瘍類似病変が発生する。その中でも、血管腫は発生頻度も高く、しばしば画像検査で鑑別を求められる。脊椎血管腫を脊椎発生高悪性度骨軟部腫瘍や他部位の高悪性度骨軟部腫瘍の転移と鑑別することは重要であり、その診断は予後因子を左右する。そこで、脊椎血管腫の診断を容易にするため、脊椎血管腫の発生頻度、好発部位、組織所見を検討した。

B. 研究方法

2000～2001年に獨協医科大学で行われた病理解剖時に摘出された脊椎97例を対象とした。過去の自著論文に準じて脊椎は正中矢状断に摘出し、ダイヤモンドソーで5mmの厚みに切り出した。軟X線撮影後、脱灰を行い通常の手順にてHE切片を作製した。対象症例は7～93歳（平均66歳）で、男性71例、女性26例。脊椎を頸椎7、胸椎12、腰椎5、仙椎5、尾椎1椎体と数え、1例の最大椎体数を30椎体とした。

（倫理面への配慮）

対象症例を匿名化後、切片を作製した。

C. 研究結果

対象症例の脊椎は、1例あたり13椎体から30椎体、計2839椎体（平均29.3椎体）であった。14例19椎体に血管腫を認めた。3例は複数病変を有し、2例が3椎体に、1例が2椎体に病変を有していた。病変は胸椎12椎体、腰椎5椎体、仙椎1椎体、尾骨1椎体にみられ、3例は第5胸椎、2例は第9胸椎、第12胸椎、第4胸椎に、それぞれ1例は第3胸椎、第6胸椎、第8胸椎、第10胸椎、第

11胸椎、第1腰椎、第3腰椎、第5腰椎、第1仙椎、尾骨であった。また、1椎体に病変を有する1例は、第8胸椎椎体に骨島（bone island）を第5頸椎と第1仙椎にそれぞれ良性脊索細胞腫（benign notochordal cell tumor）を有していた。組織学的には、造血細胞を欠く脂肪髄を背景に拡張血管が集簇し、罹患部骨梁は保たれるものの、骨梁はやや肥厚し、骨梁間は開大していた。

D. 考察

血管腫は、97例中14例（14.4%）と高率に見つかった。多椎体発生が3例（21.4%）と、多発例も多い。発生部位は胸椎が12椎体と多く、次いで腰椎に多い。仙椎・尾椎は1椎体ずつであり、頸椎例は見られなかった。胸椎が好発部位であることは、発生頻度が高くしばしば血管腫と鑑別を要する良性脊索細胞腫が仙尾椎や頸椎に好発し胸椎例がきわめて少ないことと、よい対比を示している。組織学的には、背景に造血細胞を欠く脂肪髄がみられることから、MRIのT1強調像にて病変内にある程度の信号強度が得られる可能性が高く、画像診断での指標となることが期待される。現在、血管腫は真の腫瘍というより、血管奇形という概念が導入されつつある。脊椎血管腫も背景に脂肪髄を誘導することから、内皮細胞の腫瘍性単一性増殖性疾患というより奇形的背景が示唆される。

E. 結論

脊椎血管腫は、高頻度に発生し、胸椎を好発部位とし、しばしば多発病変を要する。組織学的に、背景組織は脂肪髄であることからMRIのT1強調像が高信号を示すことが期待できる。このような特徴は、

脊椎病変の画像検査での鑑別診断に寄与するものと考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

Asano N, Yamaguchi T, et al.:

Multiple metastases from histologically benign intra-articular diffuse-type tenosynovial giant cell tumor: a case report

Hum Pathol, 45:2355-2358, 2014

Saito C, Yamaguchi T, et al.:

Primary pleomorphic adenoma of the external auditory canal: a case report and review of the literature

Case Rep Otolaryngol, in press 2014

高橋深雪, 山口岳彦, 他:

高分子 insulin-like growth factor-II 産生が確認された臓側胸膜由来の孤立性線維性腫瘍の1切除例

日本呼吸器学会誌, 3:680-684, 2014

早瀬朋美, 山口岳彦, 他:

生体肝移植後に発症した EB ウイルス関連移植後リンパ増殖性疾患に対する層別化治療

日本小児血液・がん学会雑誌, 51:158-162, 2014

山口岳彦:

図説：加齢に伴う骨・関節疾患の病理

日本臨床, 72:1710-1712, 2014

山口岳彦, 他:

「WHO2013 分類に基づく骨・軟部腫瘍の画像診断」：7. 脊索由来の腫瘍

臨床画像, 30:759-769, 2014

山口岳彦, 他:

骨軟部（症例6）脱分化脂肪肉腫

画像診断, 34:102-103, 2014

山口岳彦:

WHO 分類 骨腫瘍 2013 の改訂について

病理と臨床, 32:120-127, 2014

2. 学会発表

Yamaguchi T:

Notochordal Tumors

KAST International Symposium Bone

Health-Occurrence of tumors and genetic personalized therapy (2014.6.28 Seoul, Korea)

Yamaguchi T:

Interesting cases in bone and soft tissue pathology

Case 5

XXXth Congress of the International Academy of Pathology (2014.10.5-10 Bangkok, Thailand)

Yamaguchi T, et al.:

Soft tissue tumor with fluid-fluid level on MRI

Members Meeting in International Skeletal Society

(2014.10.16-18 Edinburgh, UK)

Imada H, Yamaguchi T, et al.:

Dedifferentiated chondrosarcoma with divergent differentiation

Members Meeting in International Skeletal Society

(2014.10.16-18 Edinburgh, UK)

山口岳彦:

WHO 分類の改訂をめぐって-骨腫瘍分類の改正について

第34回日本画像医学会 (2014.2.27-28 東京)

山口岳彦:

脆弱性骨折の病理像-骨壊死との関連について

第34回日本画像医学会 (2014.2.27-28 東京)

山口岳彦:

総合内科専門医による CPC および専門医部会

第112回日本内科学会 (2014.4.10-12 東京)

山口岳彦:

椎疾患の病理と診断：組織所見と画像所見

神奈川骨軟部腫瘍研究会 (2014.5.29 横浜)

山口岳彦:

WHO 骨腫瘍分類 2013 について：変更点と問題点

埼玉骨軟部腫瘍研究会学術講演会

(2014.6.14 埼玉)

山口岳彦:

頸椎後縦靱帯骨化症に関する組織学的研究: なぜ軸
椎歯突起部に後縦靱帯骨化が生じないのか?

第 60 回日本病理学会秋期特別総会

(2014.11.20-21 沖縄)

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

Ⅲ. 学会等発表実績

様式第19

学会等発表実績

委託業務題目 「高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究」

機関名 九州大学大学院医学研究院整形外科 岩本幸英

学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期	国内・外の別
The Importance of Research and Publication	Iwamoto Y	Pre-Congress APOA/RCOST2014 Musculoskeletal Oncology ' ' How to Publish in Top Journals ' '	2014. 10. 22	国際
骨・軟部肉腫の治療の進歩	岩本幸英	第122回中部日本整形災害外科学会・学術集会	2014. 4. 11-12	国内
骨・軟部腫瘍を含む間葉系腫瘍におけるMCL1およびBCL2タンパク発現の網羅的解析	遠藤誠, 松延知哉, 松本嘉寛, 播広谷勝三, Torsten O. Nielsen, 小田義直, 岩本幸英	第87回日本整形外科学会学術総会	2014. 5. 22-25	国内
砂時計腫形態を呈した悪性神経鞘腫腫瘍の画像的特徴	松本嘉寛, 遠藤誠, 播広谷勝三, 林田光正, 岡田誠司, 松延知哉, 小田義直, 岩本幸英	第87回日本整形外科学会学術総会	2014. 5. 22-25	国内
脊柱および胸壁の合併切除・再建を行った悪性腫瘍の治療	播広谷勝三, 松本嘉寛, 松延知哉, 岡田誠司, 林田光正, 遠藤誠, 岩本幸英	第87回日本整形外科学会学術総会	2014. 5. 22-25	国内
粘液型脂肪肉腫においてマクロファージの浸潤は予後不良因子である	鍋島央, 松本嘉寛, 福土純一, 松延知哉, 井浦国生, 小田義直, 畑野美穂子, 播広谷勝三, 岩本幸英	第46回日本結合組織学会学術大会・第61回マトリックス研究会大会合同学術集会	2014. 6. 5-7	国内

粘液型脂肪肉腫におけるFDG-PETの有用性の検討	中川亮, 松延知哉, 播広谷勝三, 松本嘉寛, 遠藤誠, 鍋島央, 横山信彦, 坂本昭夫, 岩本幸英	第127回西日本整形・災害 外科学会学術集会	2014. 6. 5-7	国内
悪性軟部腫瘍に対するsecond line以降の化学療法としての ICE療法の安全性と有効性の検 討	廣瀬毅, 遠藤誠, 松本嘉寛, 松延知哉, 播広谷勝三, 小田義直, 岩本幸英	第127回西日本整形・災害 外科学会学術集会	2014. 6. 5-7	国内
難治性軟部腫瘍に対するパゾパ ニブの効果	岩崎達也, 田仲和宏, 糸永一郎, 河野正典, 細山嗣晃, 津村弘, 松延知哉, 岩本幸英	第127回西日本整形・災害 外科学会学術集会	2014. 6. 5-7	国内
骨梗塞の発見から13年後に発症 した上腕骨高分化骨肉腫の一例	遠藤誠, 松延知哉, 松本嘉寛, 播広谷勝三, 小田義直, 岩本幸英	第43回福岡県整形外科医 会学術集会・研修会	2014. 7. 12	国内
上腕骨近位部骨腫瘍に対する腫 瘍用人工骨頭置換術の術後成績 の検討	松延知哉, 播広谷勝三, 松本嘉寛, 遠藤誠, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
骨腫瘍が鑑別診断となった focal periphyseal edema (FOPE) の4例	横山信彦, 松延知哉, 松本嘉寛, 播広谷勝三, 遠藤誠, 福士純一, 福島俊, 鍋島央, 畑野美穂子, 岡崎賢, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
悪性骨腫瘍に対するsecond line化学療法としての ifosfamide, carboplatin, etoposide併用療法 (ICE療法) の安全性と有効性の検討	廣瀬毅, 遠藤誠, 松本嘉寛, 松延知哉, 播広谷勝三, 小田義直, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内

滑膜肉腫臨床検体における melanoma inhibitory activity proteinの発現の検討	前川啓, 孝橋賢一, 井浦国生, 石井武彰, 高橋祐介, 山田裕一, 岩本幸英, 小田義直	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
悪性末梢神経鞘腫瘍における PTENの発現解析と予後的意義の検討	遠藤誠, 薛宇孝, 箱崎道之, 戸次大史, 井浦国生, 前川啓, 石井武彰, 高橋祐介, 山田裕一, 孝橋賢一, 山元英崇, 松延知哉, 松本嘉寛, 播広谷勝三, 岩本幸英, 小田義直	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
マクロファージはEGFRを介して脂肪肉腫の細胞運動能・浸潤能を促進する	鍋島央, 松本嘉寛, 福士純一, 松延知哉, 藤原稔史, 飯田圭一郎, 藤原悠子, 畑野美穂子, 横山信彦, 播広谷勝三, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
当科におけるデスモイド型線維腫症の治療成績と今後の展望	福島俊, 横山信彦, 鍋島央, 畑野美穂子, 遠藤誠, 松延知哉, 福士純一, 松本嘉寛, 播広谷勝三, 小田義直, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
頸椎頸髄腫瘍症例の頭蓋頸椎移行部における椎骨動脈と脳底動脈への側副血行路の検討-三次元CT血管造影法を用いて-	松本嘉寛, 播広谷勝三, 林田光正, 岡田誠司, 松延知哉, 遠藤誠, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内

硬膜内髄外に発生した骨外性 Ewing肉腫/primitive neuroectodermal tumorの治療成績	播広谷勝三, 松本嘉寛, 松延知哉, 遠藤誠, 中馬広一, 小田義直, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
上腕骨悪性腫瘍に対する腫瘍用人工肘関節置換術の治療成績の検討	中川亮, 松延知哉, 播広谷勝三, 松本嘉寛, 遠藤誠, 岡田貴充, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
橈骨遠位端に発生した骨肉腫に対し、広範切除および血管柄付き腓骨移植術を施行した2例	幸山敦子, 松延知哉, 播広谷勝三, 松本嘉寛, 遠藤誠, 岡田貴充, 岩本幸英	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
膝関節周囲に発生した骨巨細胞腫の術後成績の検討	横山信彦, 松延知哉, 福士純一, 松本嘉寛, 播広谷勝三, 飯田圭一郎, 藤原悠子, 畑野美穂子, 鍋島央, 福島俊, 岩本幸英	第52回日本癌治療学会	2014. 8. 28-30	国内
癌精巢抗原 PRAME と NY - ES0 - 1 の脂肪肉腫での発現と粘液/円形細胞型脂肪肉腫における臨床病理学的因子との関連	井浦国生, 孝橋賢一, 石井武彰, 前川啓, 山田裕一, 戸次大史, 山元英崇, 遠藤誠, 岩本幸英, 小田義直	第 73回日本癌学会学術 総会	2014. 9. 25-27	国内
粘液型脂肪肉腫においてマクロファージの浸潤は予後不良因子ある	鍋島央, 松本嘉寛, 福士純一, 井浦国生, 飯田圭一郎, 播広谷勝三, 小田義直, 岩本幸英	第 73回日本癌学会学術 総会	2014. 9. 25-27	国内
上位頸椎領域に発生した原発性悪性脊椎脊髄腫瘍の治療成績	松本嘉寛, 播広谷勝三, 林田光正, 岡田誠司, 岩本幸英	第 82回西日本脊椎研究 会	2014. 11. 21	国内

足底発生atypical fibrous histiocytomaの一例	遠藤誠, 松延知哉, 松本嘉寛, 播広谷勝三, 戸次大史, 小田義直, 岩本幸英	第 128回西日本整形・災害外科学会学術集会	2014. 11. 22-23	国内
骨盤部発生phosphaturic mesenchymal tumorの一例	島田英二郎, 遠藤誠, 播広谷勝三, 遠矢政和, 大石正信, 松延知哉, 松本嘉寛, 戸次大史, 小田義直, 岩本幸英	第 128回西日本整形・災害外科学会学術集会	2014. 11. 22-23	国内
軟部肉腫進行例に対する新規分子標的治療薬pazopanibによる治療経過	平賀博明, 相馬有, 小山内俊久, 浦勝郎, 井須和男	第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
Prognostic factors for high-grade soft tissue sarcomas (STS) in the extremities treated by perioperative chemotherapy with ifosfamide (IFO) and adriamycin (ADM): using the data from Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG0304)	Tanaka K, Hasegawa T, Mizusawa J, Araki N, Chuman H, Takahashi M, Ozaki T, Hiruma T, Tsuchiya H, Morioka H, Hatano H, Wada T, Hosaka M, Yoshida Y, Toguchida J, Abe S, Matsumine A, Yokoyama R, Fukuda H, Iwamoto Y	ASCO Annual Meeting	2014. 5. 30-6. 3	国際
Multicenter clinical trials for sarcomas in Bone and Soft Tissue Tumor Study Group (BSTTSG) of Japan Clinical Oncology Group (JCOG): Difficulties and future direction	Tanaka K	The 1st International Symposium on Recent Global Advances in Cancer Research	2015. 2. 12-13	国際
Tumor-suppressive microRNA-let-7a inhibits cell proliferation via targeting of E2F2 in osteosarcoma cells	Kawano M, Tanaka K, Itonaga I, Iwasaki T, Tsumura H	2015 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society	2015. 3. 28-31	国際

骨軟部肉腫に対する Gemcitabine+Docetaxel 併用療法の効果	細山嗣晃, 田仲和宏, 糸永一郎, 河野正典, 岩崎達也, 津村弘	第127回西日本整形・災害 外科学会	2014. 6. 7-8	国内
骨肉腫細胞株における let-7a1 による E2F2 発現調節と腫瘍増殖能の解析	河野正典, 田仲和宏, 糸永一郎, 岩崎達也, 津村弘	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
当科におけるパゾパニブの臨床 使用経験	糸永一郎, 田仲和宏, 河野正典, 岩崎達也, 津村弘	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
高悪性度軟部肉腫に対する補助 化学療法の臨床試験(JCOG0304) における予後因子解析	田仲和宏, 長谷川匡, 水澤純基, 荒木信人, 中馬広二, 高橋満, 尾崎敏文, 比留間徹, 土屋弘行, 森岡秀夫, 畠野宏史, 和田卓郎, 保坂正美, 福田治彦, 岩本幸英	第52回日本癌治療学会	2014. 8. 28-30	国内
骨肉腫細胞株における let-7a1 による E2F2 発現と腫瘍増殖能の解析	河野正典, 田仲和宏, 糸永一郎, 岩崎達也, 津村弘	第 73 回日本癌学会学術 総会	2014. 9. 25-27	国内
Ewing 肉腫細胞における miR-138 による FAK 発現調節と腫瘍転移 能の解析	河野正典, 田仲和宏, 糸永一郎, 岩崎達也, 津村弘	第29回日本整形外科学会 基礎学術集会	2014. 10. 9-10	国内
Involvement of epigenetic mechanism in the formation of epithelial structure of synovial sarcoma	Hineno S, Tamaki S, Yonghui J, Kawai A, Yoshida A, Okamoto T, Matsuda S, Kato T, Toguchida J	19th Connective Tissue Oncology Society 2014 Annual Meeting	2014. 10. 15-18	国際
Cellular context is important factor for the SS18-SSX-Mediated transcriptional regulation	Tamaki S, Fukuta M, Hayakawa K, Jin Y, Hineno S, Ikeya M, Kato T, Toguchida J	19th Connective Tissue Oncology Society 2014 Annual Meeting	2014. 10. 15-18	国際

新規治療戦略の開発をめざした肉腫起源細胞の探索	戸口田淳也, 玉置さくら, 福田誠, 池谷真, 加藤友久, 岡本健, 松田秀一	第87回日本整形外科学会 学術総会	2014. 5. 22-25	国内
滑膜肉腫の上皮様構造形成におけるエピゲノム制御の関与	日根野翔, 玉置さくら, 金永輝, 川井章, 吉田朗彦, 岡本健, 松田秀一, 加藤友久, 戸口田淳也	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
細胞背景は滑膜肉腫特異的融合タンパクSS18-SSXのエピジェネティック制御において重要である	玉置さくら, 福田誠, 早川和男, 加藤友久, 戸口田淳也	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
EWS/ATF1誘導性肉腫細胞株由来iPS細胞作製の試み	川村真吾, 大野貴敏, 秋山治彦, 山田泰広, 戸口田淳也, 山田一成	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
骨・軟部腫瘍の遺伝子解析 - 最近の進歩 -	戸口田淳也, 金永輝, 松永一仁, 岡本健, 松田秀一	第29回日本整形外科学会 基礎学術集会	2014. 10. 9-10	国内
EWS/ATF1誘導性肉腫細胞株由来iPS細胞を用いた発がん研究	河村真吾, 大野貴敏, 秋山治彦, 山田一成, 戸口田淳也, 山田泰広	第29回日本整形外科学会 基礎学術集会	2014. 10. 9-10	国内
細胞背景は滑膜肉腫特異的融合タンパクSS18-SSXを介したエピジェネティック制御において重要である	玉置さくら, 福田誠, 早川和男, 金永輝, 日根野翔, Knut Woltjen, 池谷真, 加藤友久, 戸口田淳也	第37回日本分子生物学会 年会	2014. 11. 25-27	国内
Application of pluripotent stem cell for sarcoma research	Toguchida J	1st International Symposium on Recent Global Advances in Cancer Research - Rare Cancers: Seeking for Ideal Medical Cares -	2015. 2. 12-13	国内

脊椎・骨盤の原発性悪性骨腫瘍における治療後機能評価	比留間徹, 竹山昌伸, 関屋辰洋, 亀田陽一, 亀田典章, 高木正之, 鎌田正, 今井礼子	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
AYA 世代の骨・軟部腫瘍の治療成績	竹山昌伸, 関屋辰洋, 比留間徹, 齋藤知行	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
Acridine Orange Therapy as a New Less-invasive Surgery for Recurrent or Aggressive Giant Cell Tumor of Bone	Matsubara T, Kusuzaki K, <u>Matsumine A</u> , Asanuma K, Nakamura T, Sudo A	2014 Annual Meeting of American Academy of Orthopaedic Surgeons	2014. 3. 11-15	国際
Novel concept of Bioactive Pedicle Screw: Biocompatibility and Bone-bonding Ability improved by chemical and heat Treatments	Akeda K, Murata K, Takegami N, Matsusita T, Yamaguchi S, Kokubo T, Goto M, <u>Matsumine A</u> , Uchida A, Sudo A	2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society	2014. 3. 15-18	国際
Soluble N-cadherin as a Biomarker for Malignant Bone and Soft Tissue Tumors	<u>Matsumine A</u> , Niimi R, Iino T, Nakamura T, Matsubara T, Asanuma K, Sudo A	2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society	2014. 3. 15-18	国際
Soluble cd155 As A Biomarker For Malignant Bone And Soft Tissue Tumors	Goto M, <u>Matsumine A</u> , Nakamura T, Matsubara T, Asanuma K, Oi T, Sudo A	2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society	2014. 3. 15-18	国際
Carbonic Anhydrase ix has the Potential to Predict Preoperative chemotherapy effect On human Osteosarcoma Patients	Okuno K, Matsubara T, <u>Matsumine A</u> , Asanuma K, Nakamura T, Goto M, Oi T, Sudo A	2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society	2014. 3. 15-18	国際
Cucurbitacin i (jsi-124) induces Apoptosis in human Osteosarcoma cells	Oi T, Asanuma K, Nakamura T, Matsubara T, <u>Matsumine A</u> , Sudo A	2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society	2014. 3. 15-18	国際

Tumor Microenvironmental Factors and Acridine Orange intensity can Predict clinical Outcome in Soft Tissue Sarcoma Patients	Matsubara T, Kusuzaki K, <u>Matsumine A</u> , Asanuma K, Nakamura T, Okuno K, Goto M, Oi T, Sudo A	2014 Annual Meeting of Orthopaedic Research Society	2014. 3. 15-18	国際
Acridine Orange Photodynamic Therapy with Hydroxyapatite Repairing Reducing the Risk of Local Recurrence and Osteoarthritis for Aggressive Giant cell Tumor of Bone	Matsubara T, Kusuzaki K, <u>Matsumine A</u> , Nakamura T, Asanuma K, Oi T, Goto M, Okuno K, Sudo A	10th Annual Asia Pacific Musculoskeletal Tumour Society	2014. 4. 9-11	国際
The Expression of Carbonic Anhydrase IX on Human Osteosarcoma Affects Chemotherapy Resistance	Okuno K, Matsubara T, <u>Matsumine A</u> , Asanuma K, Nakamura T, Ooi T, Goto M	10th Annual Asia Pacific Musculoskeletal Tumour Society	2014. 4. 9-11	国際
Bioactive pedicle screws produced by chemical and heat treatments have improved biocompatibility and bone-bonding ability	Akeda K, Murata K, Takegami N, Matsushita T, Yamaguchi S, Kokubu T, Goto M, <u>Matsumine A</u> , Uchida A, Sudo A	41st The International Society for the Study of the Lumbar Spine	2014. 6. 3-7	国際
Interleukin-6 receptor inhibitor suppresses bone metastases in breast cancer cell line	Wakabayashi H, Hamaguchi T, Iino T, <u>Matsumine A</u> , Sudo A	The American Society for Bone and Mineral Research	2014. 9. 12-15	国際
Intraoperative Extracorporeal Irradiation for Hemicortical Autogenous Bone Grafts on Bone and Soft Tissue Sarcoma	<u>Matsumine A</u> , Asanuma K, Matsubara T, Nakamura T, Okuno K, Kakimoto T, Ii N, Nomoto Y, Sudo A	19th Connective Tissue Oncology Society 2014 Annual Meeting	2014. 10. 15-18	国際
踵骨に発生したbenign fibrous histiocytoma of boneの1例	服部徹也, <u>松峯昭彦</u> , 浅沼邦洋, 松原孝夫, 中村知樹, 須藤啓広	第122回中部日本整形災害外科学会学術集会	2014. 4. 11-12	国内

メロレオストーシスによる手指 関節強直に手術加療を行った1 例	浅野貴裕, 辻井雅也, 松峯昭彦, 國分直樹, 森健太郎, 須藤啓広	第122回中部日本整形災 害外科学会学術集会	2014. 4. 11-12	国内
当科における脊椎転移手術症例 の臨床的検討	長尾信人, 明田浩司, 榊原紀彦, 松峯昭彦, 笠井裕一, 須藤啓広	第122回中部日本整形災 害外科学会学術集会	2014. 4. 11-12	国内
高感度C-reactive proteinの軟 部腫瘍における臨床的意義	中村知樹, 浅沼邦洋, 飯野隆大, 松原孝夫, 松峯昭彦, 須藤啓広	第87回日本整形外科学会 学術総会	2014. 5. 22-25	国内
生体活性機能を有する椎弓根ス クリューの開発	明田浩司, 村田耕一郎, 竹上徳彦, 松下富春, 山口誠二, 小久保正, 後藤幹伸, 松峯昭彦, 内田淳正, 須藤啓広	第87回日本整形外科学会 学術総会	2014. 5. 22-25	国内
軟部腫瘍における血中typeIV collagen値の検討	浅沼邦洋, 松峯昭彦, 松原孝夫, 中村知樹, 浅沼由美子, 大井徹, 後藤幹伸, 奥野一真, 須藤啓広	第87回日本整形外科学会 学術総会	2014. 5. 22-25	国内
軟部肉腫におけるアクリジンオ レンジ療法併用腫瘍内切除の治 療成績	松原孝夫, 楠崎克之, 松峯昭彦, 浅沼邦洋, 中村知樹, 内田淳正, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
骨肉腫における切開生検後の腫 瘍性炎症は、再発、転移、予後を 規定する	浅沼邦洋, 中村知樹, 松峯昭彦, 松原孝夫, 大井徹, 後藤幹伸, 奥野一真, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内

悪性軟部腫瘍に対するパゾパニブの治療成績	松峯昭彦, 齋藤佳菜子, 中村知樹, 浅沼邦洋, 松原孝夫, 菅原由美子, 水野聡朗, 奥野一真, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
骨・軟部肉腫標準的化学療法無効例に対するgemcitabine, docetaxel併用化学療法の治療効果の検討	服部徹也, 松原孝夫, 松峯昭彦, 浅沼邦洋, 中村知樹, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
腫瘍用人工関節再置換術の工夫	松峯昭彦, 浅沼邦洋, 松原孝夫, 中村知樹, 奥野一真, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
デスマイド腫瘍に対する外科的および非外科的治療成績	松原孝夫, 松峯昭彦, 浅沼邦洋, 中村知樹, 内田淳正, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
これからの骨・軟部腫瘍の診断と治療	松峯昭彦	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
悪性骨・軟部腫瘍肺転移に対してラジオ波焼灼術(RFA)を行った症例の検討	中村知樹, 松峯昭彦, 山門享一郎, 松原孝夫, 浅沼邦洋, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
軟部腫瘍における凝固線溶反応	浅沼邦洋, 松峯昭彦, 中村知樹, 松原孝夫, 大井徹, 後藤幹伸, 奥野一真, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
腫瘍広範切除後のリンパ漏に対する治療と予防	松峯昭彦, 浅沼邦洋, 松原孝夫, 中村知樹, 奥野一真, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内
小児良性骨腫瘍に対するリン酸カルシウム骨セメントを用いた治療成績	中村知樹, 松峯昭彦, 松原孝夫, 浅沼邦洋, 須藤啓広	第47回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2014. 7. 17-18	国内